レター

トイ・プードルにみられた角層下膿疱症の1例

A Case of Subcorneal Pustular Dermatitis in a Toy Poodle

榊原唯雄

松原動物病院

Tadao Sakakibara

Matsubara Animal Hospital

Received August 18, 2014 and accepted November 8, 2014

症例は、5歳3カ月の未避妊メス、3.3 kg、ブラウン色のトイ・プードルで、耳介内側・腹部・頸部に多発性膿疱の形成を認め、約2週間他院にてセファロスポリン系抗生物質（シンプリセフ錠1／2錠1日1回・ファイザー）の内服とヒビテン外用消毒薬（グルコン酸クロルヘキシジン液・濃度不明）にて治療されていた。初診時には、前胸部、腹部、鼠径部に膿疱、痂皮を（図1A）、頸背部から尾までの全域に膿疱、丘疹、痂皮を認めた（図1B, C）。ほとんどの膿疱は破裂しており、膿疱辺縁部に薄い痂皮様物質と毛の付着が認められた。腹部に2箇所の新発膿疱を見つける事ができた。痒みは認められず、発赤は膿疱周囲に確認された。一般症状に異常は無く、血液一般・生化学検査で特記すべき所見は認められなかった。各病変を材料として皮膚生検と膿疱内容物の細菌培養を実施した。細菌培養検査結果は、陰性であった。組織学検査にて、角層下に多数の好中球が充満する膿疱が認められた（図2A）。膿疱内には、棘融解した扁平上皮も散在性に認められるも（図2B）、角層の網目状構造の乱れは無く表皮を構成する扁平上皮の層状配列は整然と保たれており（図2C）、細胞間浮腫など天疱瘡を疑う所見は認められなかった。PAS、グロコット及びグラム染色にて真菌や細菌は認められず、無菌性膿疱と考えられた。また、真皮の炎症は軽度で、表皮直下にリンパ球などの炎症細胞浸潤がわずかに認められるのみで

あった。尚、蛍光抗体検査は行われなかった。これらより、角層下膿疱症と診断しレタグソン（レクチゾール、田辺三菱製薬、大阪）1 mg/kgを1日3回経口投与した³⁾。治療開始2週間後には単発性の膿疱が僅かに認められる程度となり、治療開始1.5ヵ月後には全く病変が確認されなくなった。レタグソンの血中濃度半減期は人体において 21.7 ± 5.7 時間の為²⁾、再発予防として1 mg/kgを1日2回投与とした。治療開始3ヵ月後にも症状を認めなかった為に休薬したが、再発は認められない。角層下膿疱症は、非常にまれな無菌性膿疱性の皮膚疾患で潜在する病因・発生機序は不明であり、年齢や犬種あるいは性による罹患率の差は報告されていない^{1,3)}。抗生物質や副腎皮質ホルモンの全身投与は無効であり^{1,3)}、ミニチュア・シュナウザーをはじめとして9種の犬種で報告されている³⁾。トイ・プードルの報告は見当たらず、初めての症例と思われる。本症例は、過去に皮膚疾患に罹患した経歴は持っていなかった。発症時前に、何らかの治療の為の投薬・ワクチン接種は行われておらず、シャンプー後に発赤や痒みを呈した事は無かった。また、フィラリア予防薬（カルドメックチュアブルP34・メリアル・ジャパン）投与は定期的に行われていたものの副作用と思われる症状は確認されず、ノミ駆除薬（内用・外用薬）は使用されていなかった。この事より薬疹の関与は否定されると思われた。藪添らは、本病態に対するレタグソンの効果は緩徐であったとしている³⁾が、本症例においては敏感な反応を示した。発症から治療開始までの時間の関与が示唆された。また、本疾患は様々な痒みを伴う事が認められているが³⁾、本症

連絡先：榊原唯雄（松原動物病院）
〒475-0917 愛知県半田市清城町 1-6-14
TEL 0569-22-4461 FAX 0569-26-2030
E-mail: info@matsubara-ahp.com

図1

- A：前胸部から鼠径部の肉眼所見。集簇した膿疱が破裂し、痂皮様物質と毛の付着が認められる。
- B：背部の肉眼所見。頸部から尾部にわたり、全域に膿疱が形成されている。
- C：背部の拡大像。多発性膿疱と丘疹が形成され、破裂した膿疱には痂皮形成、毛の固着が認められる。

例では確認されなかった。これは、発症より経過時間が短く真皮の炎症が微小だった事、抗生物質の投与により細菌の二次感染が起らなかった事の一つの要因ではないかと考えられた。病因の解明・治療方法の確立が待たれるが、本疾患へのダプソンの投与は、十分に価値の有るものと思われる。

図2

- A：病変部の低倍率像。角層下に形成される膿疱が確認される。
- B：膿疱内の高倍率像。黒矢印は、棘融解細胞を示す。棘融解細胞は、散在性に認められるも顕著では無い。
- C：病変部の高倍率像。顆粒層、有棘層、基底層の乱れは認められない。

引用文献

- 1) Kummel, B.A. 1991. p202. カラーアトラス新・小動物の皮膚病 (奥田綾子訳), LLL Seminar, 鹿児島.
- 2) Pieters, F.A. 1987. *Int. J. Clin. Pharmacol. Ther. Toxicol.* 25: 396–400.
- 3) 藪添敦史, 竹田浩一, 小林由美子, 小林哲郎, 関口麻衣子, 岩崎利郎. 2007. 獣医臨床皮膚科 13: 149–152.